

平成 27 年度 「県と市町の地域づくり連携・協働協議会」(地域会議)
1 対 1 対談 (度会町) 会議録

1. 対談時間

平成 27 年 10 月 23 日 (金) 10 時 30 分～11 時 30 分

2. 対談場所

度会町役場 2 階 大会議室
(度会郡度会町大字棚橋 1215-1)

3. 対談市町名

度会町 (度会町長 中村 順一)

4. 対談項目

- 1 伊勢志摩サミット会期中における海外への伊勢茶の PR について
- 2 県手もみ茶「片手葉揃揉み」手法の県文化財指定とユネスコ無形文化遺産登録申請に向けての国への働きかけについて

5. 会議録

(1) 開会あいさつ

知 事

皆さんこんにちは。中村町長、今日はお時間頂きましてありがとうございます。この 1 対 1 対談、私知事に就任させていただいて 5 回目というようなことでありますけれども、町長も私もまた改めての形で、新たな期をスタートしての対談というようなことで、是非有意義に過ごしていきたいと思っておりますので、よろしく願い申し上げます。

昨日は、野球のドラフト会議がありましたね。三重県出身の選手が中日と楽天に 4 人、育成枠というのでドラフトで指名をされました。大変嬉しいことでありますし、これから頑張ってもらいたいと思うんですけども、この野球とソフトボール、これが東京オリンピックで種目になるかどうかということで日本としてはぜひ種目にしてほしいというような感じですが、この度会町のソフトボールの子どもたちが今大変頑張ってくれていまして、今年の 3 月の全国大会でも準優勝し、今年の夏の全国大会でもベスト 8 に入ったというようなことで、今日本代表の女子のトヨタの山根選手も度会出身であると思っておりますけれど、これからソフトボールがどんどん元気になっていく中で、度会町が三重県の中でソフトボールの中心を占めてもらうようなそういう人材育成をしていただいているので、これから三重県はオリンピックの翌年に国体もありますしね、これからはしっかり頑張っていきたいと思っておりますので、そういうスポーツの面でも

ひ色々ご協力を頂ければと思いますし、また大正琴全国コンクールで度会町のエンゼルキッズの皆さんが最優秀賞に連続でとったということでね、子どもたちの頑張りが人口減少・地方創生の時でありますけれど、子どもたちが頑張ってくれているというのは大変明るい話題であるというふうに思っております。いずれにしましても、このように頑張っていたいでいる度会町の皆さんがさらに元気になっていただけるように今日限られた時間ですけれども町長と有意義な時間を過ごせればと思いますので、どうぞよろしくお願ひします。本日はどうもありがとうございます。

度会町長

皆さんこんにちは。ご苦勞様でございます。今日は1対1の対談ということで、29市町を非常に活力的に回っておられる知事さんでございますけれども、皆さんご承知の通りこの知事さん、非常に行動力が並外れていると言いますかそういったこともございまして、そして、やはり非常に皆さんに着目していただきたいと思ひますけれども、この知事さんはやはり県民の皆さんに対して、説得力のある話法をうまくやられるというので、非常に皆さん方が是は是、非は非で納得をしているというのは、すごいやんかトークの中でもそういった実績を残しておられるということで、大変お忙しい身の中で、今日も来ていただく前にひとつトークを済まされたということでございます。

また、県の関係者の皆さん方、日頃はいろいろとお世話になっておりますけれども、地域連携部長の福田さん、それから南部地域活性化局長の亀井さんをはじめ、関係者の方々ご苦勞様です。また、うちは小さな自治体ではございますが、日頃からやはり依存財源の強いところでございまして、何かと直接・間接的には県の指導を仰いでいるというような形でございまして、また、うちの職員もそういった事を見習いながら行政サービスに努めております。そんな中でひとつ、今回はいつもこの度会町というのではなくて、南部の地域活性化については大変知事さん中心に、私の実感でございまして毎年いつも申し上げておりますけれど一日一歩ずつ前進をしているのではないかというのを体感しておりますので、今後ともまたひとつそういった要望になってしまいましたが、引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

今日は貴重なお時間でございますが、私の方、一言ご挨拶を申し上げましてほのぼのとした対談になることを期待をしまして、皆さん方と共によろしく楽しく過ごしていただきましてと思ひますので、よろしくお願ひします。

(2) 対 談

1 伊勢志摩サミット会期中における海外への伊勢茶の PR について

度会町長

それでは改めまして、本当に今日はお忙しいところご苦勞様でございます。

まず、今日は知事との対談ということで、対談項目を「伊勢志摩サミット会期中における海外への伊勢茶の PR について」とさせていただきました。えらく大きなことを申し上げて申し訳ないんですけど、大変な危機に直面しておりますので、あえて度会町だけでなく、そういった課題を取り上げさせていただきました。まず知事にはその前に、非常に先ほども行動力等色々なことをお話しさせていただきましたけれども、伊勢志摩地域へのサミット、非常にびっくりしたというか、誘致力と知事のご英断に対しまして、まず深く敬意を表させていただきたいと思います。また、私共も近隣市町のひとつとして非常に大きな視野の中ではサミット開催というのを非常に大変うれしく思っていますので、また成功に導くようにご協力もさせていただきたいと思います。

本題に入りたいと思いますけど、現在この度会茶ということだけではなく、私共の度会茶は三重県内の生産地で5番目ぐらいだと思います。非常に小さな額の生産地ですけども、皆さんそれぞれ生産者の方々、関係者の方々頑張っております。ただその中で、やはり三重県におきまして、知事が日ごろからよく言われます、食文化ということの中では非常に歴史のある、これから伝承・保存をしていかなくてはいけないのではないかと思います。ただ、シビアな面も取り上げますと、県内の地域特産物であり、また大切な食文化のひとつであるという伊勢茶が、ご承知のように販売価格の長い低迷と消費者のニーズの減退で、大きな危機に直面しております。知事との対談の項目で迷ったんですけど、色々な課題のある中でやはり危機にある今の伊勢茶を取り上げさせていただこうということになりました。今回このサミットのため、県に推進局を即座に立ち上げられて、色々なことを進めていただいております。よく知事さんも使われている「千載一遇」という言葉がありますが、こういった海外の方々が一堂に会して来ていただく場に、この地域の特産物で食文化のひとつであるお茶を出せる機会はかつてないことで、もうないかなと思います。そういった中で、おもてなしの一事業として知事によく言われる食文化を海外への PR の中で、ぜひとも5月26日、27日の会議中に、国際メディアのセンターを立ち上げられるということで、拠点が伊勢市のアリーナということであり、会場も広いので、海外の方々が集まる会期中の会場内におきまして、短い期間ですけども、緑茶の生産原点でございますが、今でこそ機械の生産ラインになっており、大量生産になってはいますが、元々は手で揉んでやっていたというひとつ

の沿革史がございますので、ぜひともそういう生産の原点である手もみ茶の実演を知事の方からもしていただくことを今日の検討課題として、三重県の伊勢茶として位置づけられている、我々の度会茶も当然飲んでいただきたいし、PRもお願いしたいんですけれども、大きな視野に立ってこの際ひとつ、先頭に立ってこれを実現化していただいて、色々な茶業関係の方々と共に、海外へのPR・知名度のPRというのを、それからもうひとつの狙いはやはり輸出の拡大を目指していただきたいと思います。また、サミットが終わってからも今もおそらく東南アジアには力を入れていただいて海外進出の方も進めていただいているということも、茶業者の方々に聞いておりますので、ぜひともそれを目指していただきたいと思っております。また、今まで色々な角度から生産価格の低迷の打開策というのを関係者の方々をはじめ、各方面努力をしていただいておりますけれどもやはり決定打というのがなかなかございませぬ。今回はそういう意味では海外への売り込みのチャンスということで、将来を見据えた茶業界の復活の起因のひとつになることを期待したいと思っておりますので、お願いしたいと思っております。

また、現在は機械による大量生産のラインでやっているということでございますので、手もみ茶を通じて、多くの海外の方々にその原点を見ていただくことによってPRをしていただいて、今後伊勢神宮をはじめ県内の各地の観光地へ来られるの方々に対してのおもてなしとして、観光客の方々、あるいはこちらからの輸出で外国人の方々に、それぞれの国の生活様式の中でうまく緑茶を使っていたくような施策をこれからは側面的支援をお願いしたいなと思っております。

また、これから県内の各生産地の方々、度会だけではなく茶の生産団体の方々、あるいは茶業界の方々がそれぞれの立場で県の農林水産部と協議をしながらPRの展開をしていただければありがたいなと思っております。そういうことで、大変時間の限られた中でございませぬけれども、そんな中で当町の事情を言いますと、本当に20～30年前は県内の中でも5番目のところ、小さな産地の中でも茶業生産者が、専門にやっておられた方も50～60名おみえになりました。組合員数から見ますと今それが15名ぐらいの組合員さんになっております。その中でやはり、県からの指導を受けまして、認定農家に変更して一生懸命やっている農家の方々、あるいはJA伊勢さんでしっかりと支えていただいているというのが度会町の現状です。その中で、やはり認定農家さんの生活を支えている一番元になるPRをする方々が一番苦しんでおられるような状況なんです。うちは出稼ぎ農業の一戸当たりの農家の面積数も耕作面積も非常に少ないですけれども、そういうのも荒れてきているような状態で、これも課題になっております。そんな中でも茶業界で、一生懸命やられている方が設備投資もされたのになかなか

か楽な暮らしがしにくいというような傾向が出ておりますので、ぜひとも残存競争の中で皆さんには頑張ってくださいと思います。今後とも、知事にはぜひとも伊勢茶という視野に立っていただいて、先ほど言いましたような、海外への緑茶のPRの中核として、国際メディアセンターの中でぜひとも、安全性を期すということでしっかりやると思いますので。またこの後文化財ということでも触れますけれども、県の手もみ研究会というのは県一円に広まっており、皆入ってもらいます。その方が皆担い手になって主たる農業を頑張っておりますので、ぜひ実現をお願いしたいということで、当町としましても、度会茶だけの売り込みでなくて、最大限近隣市町としての役割の位置づけをこれからわずか8ヶ月でございまして、頑張ってくださいと思っておりますので、どうかひとつ、微力ながら協力もさせていただきますので、実現をお願いしたいということが1点目でございます。それに対しての知事のお考え、意欲的なお考えを持っておられると思っておりますので、ひとつぶっちゃん話でお願いしたいと思います。

知 事

はい、ありがとうございました。サミットを契機としたお茶のPRということになります。今日は町の皆さんもたくさんおみえですので改めて、町長や町関係者の皆さんはご存知の方も多いかもしれませんが、改めてサミットの取り組みの現状等も含めて少しお話をさせていただきたいと思います。

来年の5月の26日・27日にG7サミット、伊勢志摩サミットが開催されます。ちょうど今日で後216日となりました。来年5月というのは結構先だなという感じですが、216日と言うともうすぐじゃないかという感じでありまして、今急ピッチで色々作業を進めているところであります。そのPRする場面というのがいくつかあると思いますが、あとどれぐらいの人が来るのかということについては、まず先ほど町長からご紹介いただいた国際メディアセンターという国内外のメディアの人たちが拠点として取材をするところが、8年前の洞爺湖の時は4000人ぐらいメディアの人たちが来たと言われていたのですが、今回は5000人ぐらい来るのではないかと外務省等も言っているということ。それから警備の関係の人たちが20000人ぐらいは来るだろうと言われております。それ以外に消防の関係が10000人弱ぐらい来られるでしょうし、あとは政府関係者等来られて、40000~50000人とかそのぐらいの人たち来られるんじゃないかと言われていた中でじゃあどういうPRの場面があるんですか、というのをいくつか申し上げますと、ひとつは先ほど町長がおっしゃっていただいた国際メディアセンターという内外のメディアの人たち5000人が取材の拠点とする場所、そこに24時間食べ物と飲み物を供給をしていくというようなことがありますので、そう

いう所でPRできるというのがひとつ。もうひとつが当然首脳の人たちが着いて歓迎行事があつて昼御飯食べて晩御飯食べて朝御飯食べて昼御飯食べて帰っていくわけでありませぬけれども、その首脳の食事の場面というのがあります。それからもうひとつ、皆さん奥さんとか旦那さんを、基本的には女性はドイツのメルケルさんだけですので、それ以外は皆男性ですから、奥さんとご主人が来られて配偶者プログラムという、首脳が会議している間の1泊2日を県内の色々な所を回っていただくというような場面で、色々な食材とかお菓子とかを提供することがありますから、そういう場面。それから、あとは事前に、もうすでに始まっているんですけれども、プレスツアーということで、海外のメディアの人たちが来て、三重県という所は伊勢志摩という所はどういう所だということを調べる、そういうようなプレスツアー、そういうのがあったりとか。あとはそれぞれ先ほど言った数万人の人が泊まる関係のホテル、そこで三重県の食材を色々提供してもらおうというような場面が、食や飲み物の関係ではPRできる場所があると思います。そこで三重県としまして、度会町を含めて市町の皆さんからご推薦を頂いた食材あるいは県産材、木もそうですけれども、ご推薦をいただいて先般外務省の方に723品目を、今言ったような色々な場面でとにかく1品でも多くこの食材や三重県の物を使ってくれというお願いをしてきたところでもあります。そういうような場面でというようなことでありましたので、今先ほど町長からおっしゃっていただいたような手もみ茶の実演とか、あるいは緑茶の伊勢茶の提供、こういうことが実現するようにこれから国にもしっかりと働きかけていきたいと思ひますし、関係ホテル等への働きかけもしていきたいと思ひますし、メディアセンターの中で、結構セキュリティが厳しいのでたくさんの人に入ってもらって手もみ実演をしてもらおうというのはちょっと難しいかもしれませぬけれども、あるいは配偶者プログラム等で、配偶者の皆さんに手もみ体験してもらったりするのもいいかもしれませぬし、実現できるかどうか別にしてそういう配偶者の人たちにお茶とか。オバマ大統領の奥さんがミシェルさんというんですけれども、今回2016年がオバマさんとミシェルさんが最後なんです、アメリカ大統領選がありますので、ミシェルさんが2013年ですから2年前ですね、イギリスのロックアーンという所でやったサミットの時に、アイルランドの首都のダブリンに行ってそこでミシェルさんが食べたハンバーガー、普通の全くもって普通のハンバーガーなんですけれども、それが爆発的にその後売れて、アイルランドとか観光客ですごい人気になったみたいなので、ミシェルさんに触ってもらったり飲んでももらったり食べてもらったりするのは結構PR力高いので、そういう配偶者の場面等も含めて。あともうひとつあるとすれば、いけるかどうかわかりませぬけれども場面の選択肢としてはお土産系ですよね、首脳とか奥さんとか政府の人たちに持って帰っていただくお土産が

ありますので、そういうお土産、そういうことを思えば色々な選択肢がありますので、先ほど町長から言っていただいたような国際メディアセンター内での手もみ茶実現をはじめとして、何にしてもせっかくですからお茶を私たちが何としても使いたいと思っていますので、そういう場面でのPRになるように、これから色々な提案を外務省等と調整していきたいというふうに思います。

ちなみに、私がこの9月28日に総理と一緒にニューヨークに行ってきたんですけれども、そのニューヨークで経済関係者の皆さん等に、皆さんもi-phone・スマートフォンを持っている人がいらっしゃるかもしれませんが、appleの副社長やアメリカの経済界の偉いさん達に三重県のPRを英語で20分間やってきたんですけれども、その時に、その後の交流会で各県が、各県というかうちと何個かあったのですがブースを出した時にお茶のふるまいを私達やらせていただきまして、大変好評でしたし、あと4月にミラノ万博に行ったときには、そこでもお茶のふるまいとテストマーケティングという形でミラノ市内のレストランで2週間伊勢茶の提供をやらせていただいて非常に好評でした。ですので、先ほど町長がおっしゃっていただいたような輸出促進・海外展開という関係で特にヨーロッパ等は残留農薬の基準等が厳しいのでそういうのを管理する手法としてのJGAPの認証取得を、茶工場等で出来るような認証取得の支援を県としてもやらせていただいたりしていますので、そういうこともしっかりやっていきたいと思っています。

あとはこれからちょっとどういうふうにできるか分かりませんが、今年全国お茶まつりを三重県でやりますし、あと再来年菓子博も伊勢でやりますので、そういう場面でもぜひ千載一遇のチャンスですからお茶、菓子博の時なんか、やはりしっかりお茶のPRと一緒にしたらいいと思いますので、そういう働きかけもしながら、お茶全体の消費拡大につながっていくように県としてもしっかり努力をしていきたいというふうに思いますので、よろしくお願ひしたいと思っています。

度会町長

今、知事におかれましては、大変前向きなお話を頂いたという印象があるんですけれども、配偶者のおもてなし、あれも一応申し込みました。できれば非常にありがたいなと思いますので、オバマさんの夫人にさわって飲んでいただくのを期待して、実現ができることを期待していますのでよろしくお願ひをしたいと思います。これで私の方は引かせてもらいまして、あとは各論は度会茶のPRを、食材のPRまでどういうふうに行くかというのをまた産業課等これから頑張っていきたいと思っていますのでよろしくお願ひします。ありがとうございました。

2 県手もみ茶「片手葉揃揉み」手法の県文化財指定とユネスコ無形文化遺産登録申請に向けての国への働きかけについて

度会町長

それでは 2 番目でございます。今日は住民の皆さんもここに来ていただいておりますけれども今日はお茶ばかりで本当に申し訳ないですが一番の危機になっているのがお茶でございますので、ひとつよろしくお願ひしたいと思います。

先ほど申し上げましたけれども、2 番目のタイトルでございます。手もみ茶で片手葉揃揉みと言うんですけれど、その手法を県の無形文化財に指定をお願いをしたいということで、「町長、1 回そういうことも言ったらどうだ」という話もございました。今日は度会茶だけではなくて大きな視野で言いますけれども、この文化財の指定につきましては、普通色々な伊勢茶の農林業の振興からの切り込みが王道でございますけれども、やはり先ほど言いましたような食の文化ということも考えて、歴史の沿革を考えますと、教育委員会からの切り込みということも考えていかななくてはいけないのかなという思いがございまして、あえて私の方からも 2 番目にこれを取り上げさせてもらいました。そんな中で、なぜこれを取り上げさせていただきましたかといいますと、現在では、県の教育委員会の方には正式にはまだ要請等しておりませんが、サミットまで丁度 8 ヶ月を切るという中で、切り込みのひとつとして文化面でまたそういう危機を脱していくというようなことになれば、県の地域特産物としての全体に影響があるのかなという思いで、まずこれは県教育委員会の方へは相談をさせていただいているという段階でございます。ただ窓口としましては、やはり文化財、教育委員会の管理の文化財でございますので、度会町の文化財の委員会へ取り上げる問題でもないのかなというようなこともこの間事前協議いたしました。窓口としては一応教育委員会さんにもご迷惑ですけれども、お茶との振興もかねて幅広い意味でコラボしていくということで、度会町の教育委員会を窓口にも、まずこういう手続きを挙げさせていただいて、やはり文化財はなかなかこう言ったからすぐに「ああそうですか」というようにはいかないと思いますので、そういったハードルが高いところも、要件があることも知っていますが、この全体を挙げるという意味での食の文化の中でやって、ひとつ知事には今後前向きに検討をお願いしたいと思っております。

そんな中で実情を申し上げますと、県内に三重県の手もみ茶技術伝承保存会というのがございます。知事はご存知だと思いますけれども、この中で非公式に色々働きかけも行っていると思っております。彼らも一生懸命やっただいてお

りますし、またこの会長がたまたま当町出身であり、またその会長が今回、全国の手もみ茶の技術伝承保存会の会長も務めておられるということで、そんな中でどこの各地も一緒なんですけれども、茶業の担い手とか後継者不足という中で、茶業後継者である若い人たちが70名ぐらいおられますけれども、県の研究会に所属しておられて、そして普遍的に頑張っているというところがひとつの着点じゃないかと思います。そんな中で、先ほど申し上げましたような、やはり生産の原点が手もみ茶ですので、緑茶文化の伝承と保存を実践しながら茶業の情報発信とか消費減退の歯止めの対応策として、県内外で積極的に活動しながら、この21日から2~3日だと思いますけれど、手もみ茶が三重テラスの方へ、PRをしていただいているという情報を報告いただいておりますので、彼らは彼らで技術を会得しながら日々頑張っておられます。歴史の中には、やはり文化があるんですけれど、その下にはそれぞれが持つ技術というのもあると思いますので、そういう技術の掘り起こしの伝承も含めて、江戸時代から現在に至る手もみをだんだん集大成をして、途切れているように見えているんですけれども水面下ではしっかり途切れずに継続でやっていますので、そういったことも文化財指定の要件になるんじゃないかと思いますので、ぜひとも三重県でそういう保存会を結集して、片手葉揃揉みという緑茶の貴重な存在価値として知事の方から今後積極的に文化財のご理解とご支援をいただけてぜひとも近いうちに実現をしていただくような運びを、ご努力をお願いしたいと思っています。

それからもうひとつ、これは雲をつかむ話と言われて笑われるかもしれませんがけれども、私が先ほど冒頭に申し上げたように、知事の幅広い行動力とそれから非常に英断の決断力と言いますか、そういった国への働きかけのご尽力が、貴重な力をお持ちだなと思っていますので、実はこの手もみ茶はうちの出身の会長が全国の会長もしておりますので、全国1位は静岡県、2位が鹿児島県、3位が三重県ですけれど、茶業界も遅れたらダメだということで、ユネスコというのはちょっと大きいんですけれど、ユネスコの文化遺産の登録をするために、来年の2月に全国の手もみでそれを取り上げて、ぜひともそういう形を国へ働きかけていきたいんですということをお聞きしましたので、鈴木知事の国のパイプは非常に太いものですから、注目をさせていただきまして、肩の力を抜いていただいて、これについてはゆっくりと中長期的な目で、ひとつこの伊勢志摩地域でサミットを開催するというように決定したという知事のご尽力を、ユネスコの無形文化遺産の登録の実現に、国への働きかけを私の方からお願いしたいと思っていますので、併せてでございますけれども、よろしく願いをいたします。

知 事

ありがとうございます。まず手もみ茶の技術が県等の文化財になっているのは京都府と静岡県が実はそういう手もみ茶の技術が府や県の文化財に指定をされているというふうに聞いています。実際、今保存会の会長をお務めの中森さんから、知事に就任した年の12月ぐらいでしたかにご相談を受けて、その翌年度の平成24年度にうちの教育委員会の文化財の担当課の方で具体的にご相談を受けたというふうに聞いています。この県の文化財にするには、国の基準と準拠してやっているの、三重県独自の技術ですねというのが分かるようにすることが大事で、今、資料があまり集められていない。度会町さんと一緒になって、資料を集めるというのが大事かなというふうに思っています。結構、私知事になってから海女の文化財の指定をやりましたけれども、相当文化庁ともやり取りして、かなり資料をしっかりと集めないといけなかったというがあるので、そういうのを一緒に、過去に県の文化財を指定したり国の文化財の指定にあたって、無形民俗文化財という種類になると思うんですけど、手もみ茶の片手葉揃揉みだと、そういう無形民俗文化財になると思いますので、その民俗技術ということになると思うんですが、それで指定文化財の指定を受けた時にどんな資料収集が必要だったかとか、文化審議会にかけるときにどんな資料が必要だったかとか、どういう観点の説明が必要だったかというのを度会町さんとか保存会の皆さんと一緒に研究していくということが大事かなというふうに思っています。その技術がその地域的特色があるとかその技術がこういうふうに変遷してこういう変遷の過程をたどってこういうふうに変遷したというようなことを証明しなければダメらしいので、そういう資料集めの中から今申し上げたような形で研究をしていくということかなあというふうに思っています。あと、より説得力が高くなる方法としては、できれば第1弾に度会町で町の文化財に指定していただいたら多分より説得力も増すと思いますし、その上で、その保存会の太田町とか多気町とか松阪市とか津市とか亀山市とか鈴鹿市とか四日市市の他の伊勢茶の産地の皆さんと連携して一緒に県指定の推薦等やってもらおうと、より説得力が増すというか前に進みやすくなるのかなというふうに思っています。というような形で、県の文化財に向けては、資料を収集し、どういう素材が必要かをもちろん我々もそういうこれまでの経験を伝えさせていただいて、一緒に汗をかいて、その後、今申し上げたような町の文化財にさせていただいて、あと、ほかの産地と連携していただくという手順でやっていただくと、一番いいのかなというふうに思います。

あと、国への働きかけについては中長期的にも今の動きを見ながら、ぜひ働きかけをしていきたいと思っています。この多分来年中か今年か分かりませんが、ちょっと止まっているような山とか山車とかそういうのも、他の県のい

くつかと連携して国指定をうけたりユネスコ登録をうけたりしていますし、最近だと美濃和紙等の和紙とかも、他の県と連携してユネスコといたりしていますので、この町と県の文化財になることがもしできれば、その後は他県のお茶の産地等とも連携をして、すでに手もみ茶で無形民俗文化財に指定されている京都府とか静岡県とかと連携してやっていくというのもひとつの手なのかなというふうに思っていますので、そういう中長期的なそういうところも視野に度会町さんと連携して取り組んでいきたいと思えます。

度会町長

色々なハードルがあるというのも我々も承知をしておりますので、これからは今ご指摘があったように、やはり依頼するこちらの方がしっかりと受け止めて、資料をもうちょっと具体的にとか、そういうのも、うちの教育委員会を通して、ご指導を仰ぎながらやっていきたいと思えます。またぜひとも地域連携というのがやはり大切なかなと思えますので、北南が一円になれるように、また生産地の方とやりながらいきますので、陣頭指揮でひとつよろしく願いしたいと思えます。ありがとうございます。

(度会町の特産品紹介)

度会町長

知事にはしょっちゅう寄ってもらっておりますが、小さな生産地のつくりということで度会町の特産品について紹介をさせていただきます。

ここへざっと並べた、これが全部じゃないんです。まだまだあるんです。まあそういうことではなくて、まずどうしましょう。順番は聞いていませんので順不同で、生産者の方々もおられますので、まずじゃあこちらから行きましようかね。

まずここに並べさせていただきましたのは、今日は南部地域活性化に非常にお世話になっておりますけれども、ふるさと納税のお礼品というのが、非常にうちの度会町は私の力不足で今まであまり力が入らなかったんですけども、南部の活性化のおかげで地域連携したら、1000万を超えた段階で、非常に私もびっくりしています。なんと無能な町長だったのかなと。産業課に頑張っていると思います。その中で、ふるさと納税に乗っていこうということもありまして、新しいふるさと納税の商品開発も兼ねて、じゃあまずこちらから行きましようか。

これはもう、茶と米というのは耳にタコができるぐらい話をさせてもらっています、いつものようにお茶が頑張っていて、こういった、お茶というのは嗜好

品でございますので、北の、北勢のかぶせ、水沢茶ですか、それから鈴鹿の茶、あるいは中勢の松阪の深蒸し茶とか、度会は深蒸し茶と煎茶を主にしてやっていますけれども、その中で例えば茶の頑張りとしての特産品としてのこれからの伊勢茶のブランド化目指して頑張りたいと。それから、米が非常に小さな出稼ぎ農業の地域の、中山間地域ですので、これまでもお米の名前というのを出したらどうかとも言っていましたけれどもなかなか農業者と言いますか反別が少なくて大きな規模の農家も少ない中で、今回地域の住民たちで決めました。「極」という名前のお米です。

知 事

「極」。いいですね。

度会町長

そして、ミルキークィーンですね、お礼品として扱わせてもらっています。非常に水がいいところですので、おいしいお米がとれておりますので、できれば度会の、本当はひとつの名前で統一するといいんですけど、そういうことは今後の JA と相談ということで、今日は紹介だけということで。

それからお茶が並んでいます。それから、この町内事業でやらせてもらったのがこのブルーベリーなんです。これは小さな生産地づくりということで、設備投資をあまりやらずにやはり農業で小さな産地を目指そうかということで、やっと今 13 名ぐらいで、私も一応言い出しっぺですので作らせてもらっています。

知 事

そうですか。

度会町長

いつまで続くかどうかは分かりませんが、今のところは波にちょっと乗った段階ですので、ひとつ知事をお願いしたいのは、三重県産で、昨日一昨日も松阪でパンのこだわりの大会がありました。あの時もニュースで、今までブルーベリーというのはパンで言っていなかったんですけど、最近ブルーベリーというのが出てきているんです。だから三重県も茶とか米ではなしに、特産地としてのブルーベリーという形は、皆さんそれぞれ小さな産地が結束していくという、全国の菓子大会なんかのブースにも出して、三重県にも知事にもお願いしてブルーベリーというのがあるよ、南でも作っているし北も中勢も作っていると、あわせて三重県産ですよというぐらいの体でひとつお願いをした

いなど考えています。

知 事

そうですね、この前、松阪地域等を中心に、513 ベーカリーというパン屋さんがあるんですけど、あそこで三重パンというのをやったんですけど、毎回3種類ずつ毎月違うのを出していくんですけど、サミットまで7ヶ月。そのうちの1個2個目がいちじく出して、「あ、いちじくも三重県で作っていたんだ」というふうなことで、メディアの人からも言ってもらったので、ブルーベリーもやったらいいかもしれませんね。あとは菓子博の時ね。菓子博は実行委員会に提案しておきますので。

度会町長

小さな生産地としてのつくりをやりたいと思いますので。
次の作品を見てください。

知 事

ギターです、ギターですな。

度会町長

私もギターやっていますけど。これは農林業の振興の中で。

知 事

あ、いい音してます。

度会町長

神宮杉の身を削ったものを利用したりしています。

知 事

「伊勢志摩サミット」って書いてもらってありますね、これね。ありがとうございます。

度会町長

これからの売り出しの製品なんです。あと数珠とか。

知 事

数珠よろしいな。

度会町長

最近は全国的傾向だと思いますがまな板が、若いお父さんお母さん、または野外のバーベキューなんかで使うということで、プラスチックじゃなくて木材が売れているらしいです。非常にふるさと納税でも人気がある。

知 事

まな板。へー。

度会町長

数珠が、ちょっと高く寄付を頂かないと出ないんですが。

知 事

これもふるさと納税で。数珠。

度会町長

数珠。これ結構出ているんですわ。

知 事

これ結構出ているんですか。

度会町長

はいそうです。こういう木製品、これがやはりふるさとの創出事業と言いますか、新しい復活の事業の起因になればいいかなと。林業家としては価格低迷して苦しんでいますので、そういった中で幅広い中で、木製品がこういう所で売れたり。あるところで聞きますと、月に何十枚やらまな板が売っていて、その業者の人は「製材業よりもその方がいいんじゃないか」という話もこの間聞いてきたんです、実績のあるところで。だからぜひともこういう物をうちの開発商品として皆さんの物づくりの中で町としても進めていきたいなという思いもございます。

知 事

これ、三重テラスでも 1 回マーケティングで出したらいいのに。三重テラスね、真珠の数珠とか売っているんですけどね、これ意外と売れましてね、結構日本橋で数珠買っていく人結構多いんですよ。真珠の数珠結構高いんですよ。何万するやつなんですよけれども買っていかれるんで、何かこういう数珠等も三重

テラスで試験的に出したらいいかもしれません。

度会町長

ご指示いただきましたので、業者の方と産業課とポップステップまで行くように。

知 事

これ、木の折り紙がね、あるじゃないですか。木の折り紙、これ。すごい。

度会町長

これなんですけれども、木の折り鶴。これは商品開発の途上と言いますか、これから売り出していこうという、新しいので用意しました。

知 事

折り鶴はね、海外の人たちへのお土産で桑名の連鶴を持っていくことが結構多いんですけれども、桑名の連鶴とコラボすると面白いかもしれませんね。

度会町長

またこれから商品開発もして行って、ものづくりの一つですから。それからこれが非常に素晴らしい物ですけれど、これはうちのステンレス業、ここにも若社長がみえていますけれども、これを色々と断片化できるんですね、ステンレスの各板。それをうまく利用しようかなと。傘立てが一応出ております。これからのやつが名刺入れを作ってもいいんですけれど、高価なものになるとどうかなと、持ち運びができますので、これを産業課とまた検討したいと、今後、記念品のような形で。

知 事

こんなの喜ばれるね。子どもの写真入っていますけれども。

七五三の記念等でやったら喜ばれるね、これ。町の写真屋さんと一緒にやると。よろしいな。

度会町長

色々な祝いの記念品のグループに入れるかなと思って。

知 事

いいと思ういいと思う。

度会町長

昨日一昨日ちょっと見せてもらって。今はものづくりの新しい産業の創出かなと思っておりますけど。

知 事

これ初PRですよ。

度会町長

明日一応バザール度会、あそこで一緒にやるということで。

知 事

素晴らしい。これいいなあ。これもすごいですね。

度会町長

こういう高価な物とか大衆品とか記念品とか。色々な物を、ステンレスだけではなくにステンレスは非常に長持ちするということで。

知 事

そうですね、僕らも海外の人へのお土産で鈴鹿の伊勢型紙とか持つていくことが多いので、この模様とか伊勢型紙とコラボしたりするといいかもしれませぬ。

度会町長

色々なところで夢が広がると思いますので、頑張ってくださいですね。こういうふうには林業とかうちの町として、なんですけれども、ものづくりをやはりやって、こういうふるさと納税からスタートしたいと考えています。

そういったことで、すいません、ざっといきましたけれども、この他にもシイタケとか色々ありますけれども、こういうことで、ひとつ度会町のPRのひとつでよろしく願います。

知 事

ありがとうございます。素晴らしい。色々な度会町のいいものを教えていただきまして。

(3) 閉会あいさつ

知 事

はい、今日は中村町長ありがとうございました。また、1時間お付き合いいただきまして皆さんありがとうございました。そしてPRにご協力いただいた関係者の皆さんも本当にありがとうございました。対談の中身としましては、本当にこの度会の歴史をつかさどってきたお茶を中心にサミットという千載一遇のチャンス、また中長期的に歴史を保存していくための取り組み、そういうあたりについて議論をさせていただきました。しっかりいずれも前向きに取り組んでいきたいというふうに思います。

それから私、毎年29全市町、1対1対談やらせていただいておりますけれども、最後にPRタイムがあり、かつ食べ物をふるまっていたという1対1対談は度会町だけです。中村町長だけです。ぜひ皆さんね、こういうしっかりやっていた町長を、本当本当、他ではPRタイムとかふるまっていたようなのはなかなかありませんので、本当に貴重な機会でしたし皆さんと一緒に、こういう元気が出ていくようなPRをしっかり頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。今日はどうもありがとうございました。